

【学会報告】

ガーナにおける小児感染症リサーチの面白さと難しさ Interesting and Difficult Aspects of Pediatric Infectious Disease Research in Ghana

菅田健¹⁾

1) 独立行政法人国立病院機構三重病院小児科 臨床研究部

【目的】

ガーナ共和国はマラリア、HIV/エイズ、下痢性疾患などの感染症や、エボラ出血熱などの新興感染症の負担が大きい国の一つである。また 2014 年には首都アクラ近郊でコレラの流行をみとめた。感染症対策は重要な医療政策であるが、日本における感染症法が存在せず、罹患者の多い胃腸炎においても病原体診断は迅速診断キットの普及しているコレラ以外はなされていない。また急性胃腸炎には、多くの場合、抗菌薬、抗寄生虫薬等が使われている。このような背景から、ガーナにおける胃腸炎の病原体サーベイランスの確立（原因微生物の特定）および将来的には全国に拡大しガーナの公衆衛生への貢献することを目的とした。

【方法】

Surveillance and Laboratory Support for Emerging Pathogens (SLEP Project)として 2017 年より 5 年間に首都アクラ近郊の Ga West 地区から 5 定点医療機関および 2 検査機関を選定し、胃腸炎病原体サーベイランスを実施した。

【結果】

定点医療機関によっては分区全体での報告数の割合は年毎により変化のあるものの、便検体採取率はいずれの機関においても 5 歳未満で 2%以上、5 歳以上で 16%以上と高い割合を達成した。病原体は細菌においては 724 検体中 147 検体 (20.3%) で同定され、その内訳は E.coli が 71 検体 (9.8%)、Salmonella sp. が 35 検体 (4.8%)、Shigella sp. が 20 検体 (2.8%)、Vibrio sp. が 21 検体 (2.9%) であった。またウイルスにおいては 724 検体中 200 検体 (27.6%) で同定され、その内訳は Enterovirus が 72 検体 (12.9%)、Norovirus が 70 検体 (12.6%)、Rotavirus が 64 検体 (11.5%) であった。本サーベイランスによりウイルスが細菌の比率より高いことが判明し、これまでに予想されていなかった胃腸炎病原体が明らかとなり、診断や治療選択（抗菌薬適正使用）など公衆衛生における貢献が期待される結果を得た。

【考察】

適切な医療機関や検査機関の選定、人材育成や技術移転、輸送網の改善などを向上することで質の高い胃腸炎サーベイランスを実施することが出来た。しかし財政面や試薬および資材などの物理面における持続性が今後の課題である。

キーワード：公衆衛生、胃腸炎サーベイランス、細菌、ウイルス、持続性